

2021年2月5日

脳神経外科に、過去に入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への検体及び診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありません。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名] 開頭腫瘍摘出術後患者における退院時ADL能力と転帰の関係

[研究機関の長] 香川大学医学部長

[研究責任者名・所属] リハビリテーション部 作業療法士 二宮健人

[研究の目的]

当院にて脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術とリハビリテーションを施行された患者さんを対象とし、日常生活動作の自立度評価尺度である Barthel Index の詳細項目の退院時の自立度が転帰(自宅への退院か否か)に関係するかを検討し、自宅に直接退院できるように役立てます。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

原発性脳腫瘍の診断に対して、2019年4月1日から2021年3月31日の間に、当院脳神経外科にて開頭腫瘍摘出術を施行され、その後に当院にてリハビリテーションを受けた方

○利用する検体・診療情報

検体：特になし

診療情報：脳腫瘍の病理学的診断(組織型)と悪性度、脳腫瘍再発の有無、脳腫瘍の局在、合併症および既往歴、退院時年齢、性別、同居家族の有無、リハビリテーション開始時と退院時の身体所見(身長、体重、Body Mass Index)、放射線療法および化学療法等の手術以外の治療状況、身体機能測定値(Fugl-Meyer Assessment(上下肢の運動麻痺を測定)、握力、下腿周囲長、10m歩行の時間、速度、歩数、ケイデンス(1分当たりの歩数)、歩行補助具の使用)、精神認知機能検査値(Mini-Mental State Examination)、日常生活動作能力値(Barthel Index)、転帰、在院日数、入院日、退院日

[研究組織]

香川大学医学部附属病院 脳神経外科

香川大学医学部附属病院 リハビリテーション部

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院リハビリテーション部 作業療法士 二宮健人

電話 087-891-2306